

<便培養検査のご案内>

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。
さて、今年もまた梅雨時から夏にかけて、食中毒が心配される季節となりました。
原因菌も多様化しており、便培養検査を是非ご利用下さいますようお願い申し上げます。

敬具

項目コード	検査項目	保険点数	所要日数	検査容器
078	赤痢・サルモネラ・ビブリオ	130点	3～5日	採便管
089	赤痢・サルモネラ・ビブリオ・病原性大腸菌	210点	3～5日	
018	カンピロバクター	75点加算(注)	3～5日	

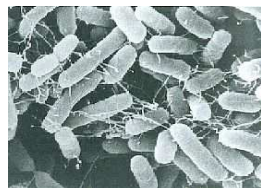
(注) ただし、病原性大腸菌を併せて行った場合は算定不可。

腸炎ビブリオ
(*Vibrio parahaemolyticus*)



潜伏時間は約10時間から24時間(短い場合で2、3時間)で、激しい腹痛、下痢などが主症状です。発熱、はき気、おう吐を起こす人もいます。

サルモネラ
(*Salmonella spp*)



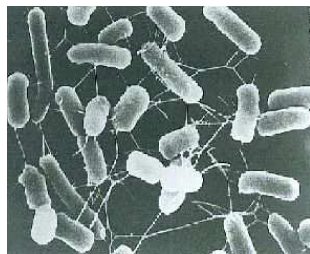
潜伏時間は約5時間から72時間で、腹痛、水様性下痢、発熱(38℃～40℃)が主症状です。おう吐、頭痛、脱力感、けん怠感をおこす人もいます。

カンピロバクター
(*Campylobacter jejuni/C. coli*)



潜伏時間は、2～7日(平均2～3日)で潜伏期間が長いのが特徴です。腹痛、下痢、発熱が主症状で通常、発熱、けん怠感、頭痛、筋肉痛等の前駆症状があり、次いではき気、腹痛が見られます。前駆症状の後、数時間から2日後に下痢症状が現れ、下痢は1日10回以上に及び、1～3日続く。腹痛は下痢よりも長期間継続し、発熱は38℃以下が普通です。

病原大腸菌
(*Escherichia coli*)



1. 腸管病原性大腸菌(EPEC)：下痢、腹痛を症状とし、サルモネラ属菌とよく似た急性胃腸炎を起こす。
2. 腸管侵入性大腸菌(EIEC)：腸の細胞内へ入り、赤痢のような症状(血便、腹痛、発熱)を起こす。
3. 毒素原性大腸菌(ETEC)：エンテロトキシンにより、コレラのような激しい水様性の下痢を起こす。
4. 腸管出血性大腸菌(EHEC)：ベロ毒素により腹痛や血便などの出血性腸炎を起こす。ベロ毒素産生性大腸菌(VTEC)とも呼ばれている。
5. 腸管集合性大腸菌(EAggEC)：腸の細胞に付着しエンテロトキシンを産生することにより、散発的に下痢症を起こす。

(写真：東京都健康安全研究センター提供)

潜伏時間はEPEC及びETECは12～72時間で、EIEC及びEAggECの場合は1～5日(3日以内がほとんど)、EHECの場合は4～8日です。腹痛、下痢、発熱(38℃～40℃)おう吐、頭痛などが主症状です。

*東京都健康局食品医薬品安全部食品監視課HPより引用